



教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子



開園90周年

港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

6月園だより

令和6年5月29日

May. 29, 2024

園長 河合 晴美

Principal

Harumi Kawai



子どもたちの育ちに向けて

園長 河合 晴美

5月の心地よい風と日差しに恵まれ、先日の親子活動で植えた植物が日増しに大きくなっています。3歳児りんご組のミニヒマワリ、4歳児ばら組のエダマメ、5歳児さくら組の夏野菜など、毎日、変化に気付いた幼児が声を上げ、知らせる姿に笑顔があふれています。

今年度、南山幼稚園では「自ら考え かかわりを深め 豊かな学びを創り出す子どもの育成」という研究主題の中で「自然を通して幼児同士の関わりを支える教師の援助の工夫」を研究してまいります。幼児の姿を細かく捉え、それぞれの動きや言葉、ものがどのような意味をもち、展開しているのかを分析し、教員間で共通理解し、新たな指導の方向性を決めます。昨年度、自然との関わりで気付いたこと、考えたことなどが感情とともに表す姿となり、それらが伝わり共感する姿、認める姿が次につながり、心豊かになる結果が得られました。今年度は、それらを見通し、教師の援助をさらに工夫していきます。

また、15日に行われた保幼小合同研修会では、小学校区ごとに子どもたちの様子を共有し、小学校入学にかかわる接続期の教育について共通理解をしました。小学校、幼稚園の教員と地域の保育園の保育士の方々が幼稚園の保育の様子、小学校の授業の様子を参観し、子どもの育ちつつある姿や学んでいること（経験していること）を共有し、協議しました。その後、それぞれの立場で行う指導内容から子どもの発達を考え、育ちにつながる指導内容へと工夫していくことを確認しました。そして、今求められている幼稚園から小学校以上の学校教育の中で共通して育てる「生きる力の基礎」となる3つの資質・能力（幼児期では、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」）を育てていくことにつなげていきます。

幼稚園では、4、5歳児が品川水族館の遠足後、いろいろな形で経験したことを取り入れ楽しみました。水の中の生き物やトンネル状の水槽をつくる姿、イルカになりショーを再現する姿など、自由な発想で考え実現しようとする姿が見られました。そして、これらをきっかけに学級の友達や異年齢の友達とかかわり、さらに楽しい経験となりました。

私たちは、子どもたちの育ちに向けて、教育活動を様々な角度の視点で考えていくことを丁寧に、謙虚に行うことで大きな育ちを保障していきます。



<3歳児のおうちごっこの遊び>



<タコをつくって遊ぶ4歳児>



<イルカショーの再現をする5歳児>

